第3種郵便物認可　朝日新聞

抗がん剤イレッサ副作用

〝警告〟2日後の死

販売元・医師・患者 伝わらぬ情報

新薬育てる環境 未成熟

肺がんの末期と診断された31歳の女性が、抗がん剤のイレッサ(一般名・ゲフィチニブ)による治療を開始したのは昨年8月15日だ。その副作用で死亡したのは、10月17日。この間、救える機会はなかったか。販売元、医師の手だては十分だったのか。

イレッサの副作用で死亡した近沢三津子さん＝01年3月撮影

さいたま市内に住む自営業、近沢昭雄さん(59)の次女の三津子さん(当時31)に、肺がんが宣告されたのは01年9月11日だった。同時多発テロが起きた、あの日だ。

大学病院で「半年もたない」と言われた。

だが、近沢さんは告知できなかった。甘えん坊の娘に、耐えられるとは思えなかった。丸山ワクチンやがんに効くとされる健康食品。娘にないしょで試させた。

10月中旬、県内の公的病院に入院した。症状は進み、強力な治療が必要だった。告知を決めた。

「肺がんなんだよ」

「うん、知ってたよ」

泣いたのは娘ではなくて自分だった。娘は「どうやって治療しようか。私、生きたいよ」。抗がん剤治療が始まり、入退院を繰り返した。

翌年8月、インターネットでイレッサを知った。医師と相談して、8月15日から、褐色の錠剤を1日1粒、服用した。

9月の終わりごろ、娘の息切れが始まった。階段の途中で何度も休む。これまでにはない症状だ。

10月3日、定期の外来診察でレントゲンを撮った。「すぐに入院してください。カリニ肺炎かもしれない」。イレッサの投与を中止した。

入院後、呼吸困難が激しくなった。急激に症状が進み、酸素マスクがつけられた。苦しいからベッドの背は45度の角度にしてある。

看護師が「苦しくなったら教えて。薬をうつと楽になるから」といってくれた。だが、娘は、眠らされて、そのまま死んでしまうことを恐れ、点滴も注射も受け付けなくなった。

両手を握りしめながらあえぐ。背後にある酸素吸入器のバルブを何度も振り返る。もっと酸素が欲しいのだ。「生きたい」。そういって泣く。

10月16日、父は医師に別室に呼ばれた。

その前日、販売元のアストラゼネカ社が、副作用を警告する緊急安全性情報を出していた。

「娘さんも副作用かもしれません」

17日、娘の呼吸が急に楽になった。ウトウトしながらベッドに座る父親にもたれながら「パパごめんね」。

耐えられず、屋上に上がった。そのすぐ後、娘は急性肺障害で息を引き取った。

3時間後に実施された病理解剖の報告書には、こう書かれていた。

「死因は呼吸不全」

「他の原因は見いだされず、イレッサとの関連が十分にあり得ると判断する」

その後、主治医もイレッサの副作用であることを認めた。

近沢さんは、思う。抗がん剤で助かる命がある以上、この薬をなくしてはいけないとも思う。だが、なぜ自分の娘が、と思うと、やっぱり割り切れない気持ちになる。

近沢三津子さんが亡くなる約1カ月前の昨年9月12日、この病院では、イレッサを投与された男性患者(当時59)が急性肺障害で亡くなった。投与して翌日の急死だった。

内科の医師らは、イレッサの副作用を疑い、販売元のアストラゼネカ社のMR(医薬情報担当者)に連絡。9月20日前後に、MRから「副作用死が数人いる」と初めて説明されたという。

医師らは、7月に開かれたイレッサの説明会に参加しているが、その時も、その後のMRとの接触でも、重い副作用が起きているとの情報は聞いていなかった。

一方、ア社は9月初めには海外を含めて約60例の副作用症例を把握していたことがわかっている。11日に開かれた社内の担当者会議では、イレッサと副作用との関連性を認め、添付文書改訂まで検討していた。それらの情報は、現場の医師に伝わってはいなかった。

●続けた投薬

ア社のMRが、主治医に副作用で死者が出ているという情報を伝えた後、主治医は近沢さんへのイレッサ投与を中止していない。中止しないまでも、せきや呼吸困難などの症状がないかどうかを確認すべきだが、家族によると、異常が見つかった10月3日の外来診察まで、主治医からの連絡はなかったという。

近沢さんは、イレッサの服用を続けていた9月21日ごろ、胸部レントゲンを撮っていた。その時点で主治医は、レントゲンに「異常はなかった」と家族に説明。とすると、近沢さんの副作用は、この後に急激に進行したことになる。MRから情報を得た時点で慎重になっていれば、副作用は防げたかもしれない。

●劇的な効果

イレッサが劇的に効いたケースも少なくない。山口県内の公的病院では、42人に投与し、20人がガンで死亡したが、8人に効果があったと認められる。8人のうち4人は、がん細胞がほとんど消えてしまった。

「劇的に効く」抗がん剤を、どう育てていくか。世界で初めて日本で承認された抗がん剤で、日本の医療現場が試されている。

2003年3月3日
朝日新聞